

流行のパイオニア！

ワンダフルプリント

夏の太陽に映える

クールなタッチのワンダフルプリント

はシーズンのモードを

リードする夢の服地です



有名デパート・洋装店で

お求め下さい。

丸増株式会社



CONCERT

DOSHISHA
GLEE

同志社グリークラブ

第57回

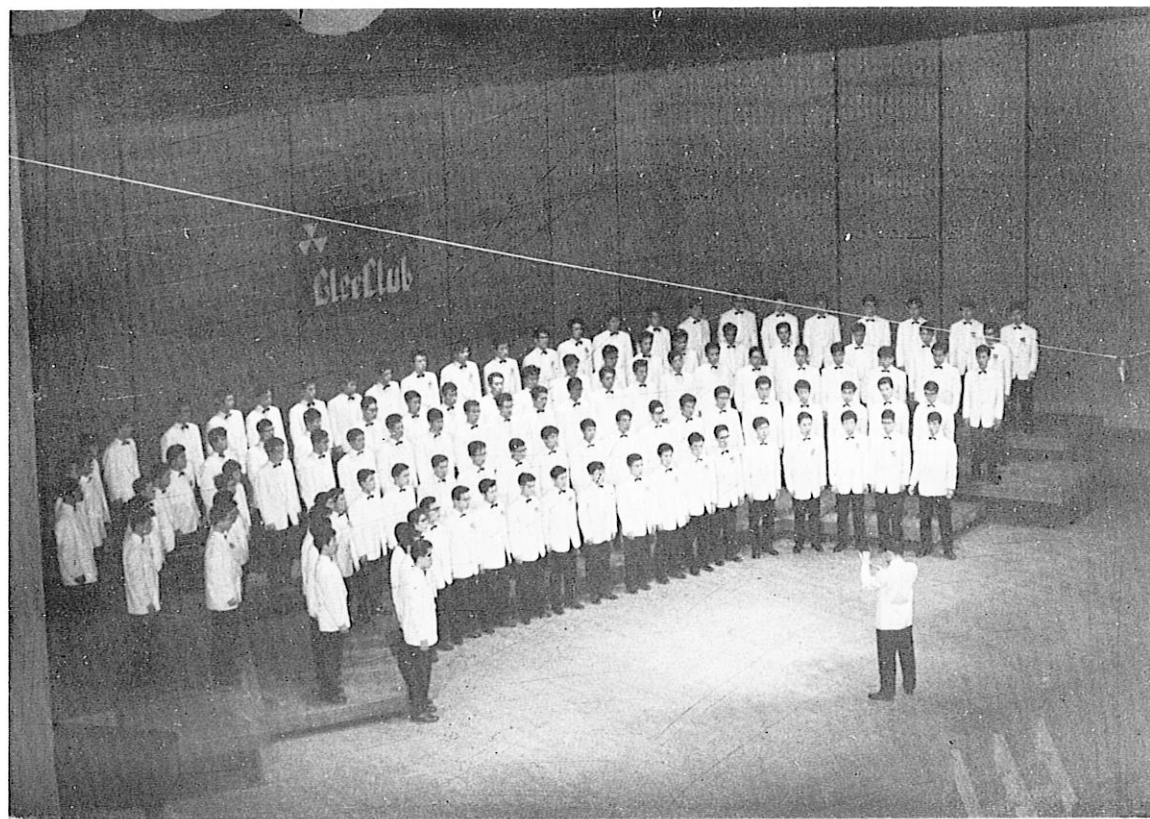
定期演奏会

指揮 福永陽一郎 (東京コラリアーズ指揮者)
(藤原歌劇団常任指揮者)

浅井敬一

1961年7月1日(土) PM 6, 30

京都会館第一ホール



ごあいさつ

今夕ここに多数の皆様方の御来場を賜わり同志社グリークラブ創立57周年定期演奏会を盛大に催すことができますことは私達の最も喜びとするところであります。

創立以来常に私達グリークラブの精神的ささえとして変らぬ愛情と御教示をいただいた顧問、片桐哲先生に変わりこの度顧問に遠藤彰教授、技術顧問に福永陽一郎氏を迎えさらに一段と承継と発展を期す覚悟であります。

片桐哲先生にあらためて感謝の意を表わしますと共に御来場賜わりました皆様方、諸先輩には、技術的にも精神的にもまだまだ未熟な私達に一層の御支援と御批判を賜わりますようお願い致します。

明治、大正、昭和の三代にわたるこの輝くべき歴史と伝統をうけつぎ、常に真の男声合唱と深いハーモニーの美しさという課題に対処し精進を続けることを皆様方にお誓い致します。

1961年7月1日

同志社グリークラブ

M E S S

A G E

御 挨拶

同志社 総長 大塚 節 治

明治の末、わが学園の音楽愛好者数名が相寄り、讃美歌練習をもつて始めたグリークラブは、爾來50数年幾多の辛酸を経て漸く今日の隆盛一優秀合唱団としての不動の地位を占めるに至つたのでありますが、本日この定期演奏会開催に当りグリークラブを今日あらしめた諸先輩の精進努力に対しまして（陰に陽に）物心両面にわたり御指導御支援を賜りました諸氏に対し、さらに本日御来聴の各位に対し、衷心よりの謝意を表わします。

近年録音放送技術の進歩、ラジオ、テレビ、ステレオ等の普及により居ながらにして名演奏を聞くことが出来るようになりましたことは音楽愛好者にとつて誠に喜ばしいことでもあります。洋楽に対する一般の関心も高まり鑑賞批判力も大いに向上して参りました。顧りみれば洋楽の未だ普及していなかつた明治、大正、昭和の初期、また終戦後の人心混迷のとき、グリークラブをはじめ各種学生音楽団体が文化運動に於いて果たした役割は誠に大きいものがありました。漸く人心も安定し且つ音楽に対する理解関心の高まつて来た今日、学生音楽団体もその在り方に就て反省検討すべきときかと思ひます。勿論自ら音楽を楽しむ、また技倆を磨くことも必要であります。しかし学生の音楽団体が徒らにプロに追従する傾向にあるとき若き学徒でなければ、また清純な情熱と知性をもつてしなければ成し得ないことを輝かしい伝統を有つたグリークラブが先づ求め見出さんと日々精進を続けているのであります。大方の御静聴と何分の御高評御指導を御願ひ申し上げます。

同志社 大学 学長 上野 直 蔵

同志社のグリークラブの定期演奏会が今回で、57回目というのでありますから、太平洋戦争中の空白期間を加算してみますとその歴史は非常に古いということになります。古いのれんを誇るということは、よい面にも、悪い面にも転ずるのでありますが、グリークラブの諸君は、先輩諸氏の残された伝統を十分に意識し、それをしつかり把握し、拡大されてまいりました。それは、ここ四、五年のクラブの獲ちとられたかずかずの榮譽からもよく分ることです。

Vocal sound のもつている美しさが、合唱という形式で見事な harmony のうちにひびくとき、わたしたちの原始的な歡喜が、ゆすぶられるようにうずいてまいります。「歡喜」なるほど、'glee' に通ずるものでありましよう。

ご来会の皆さまにおかれては、盛夏もほど近い土曜日の夜の一刻を、ごゆつくりと合唱曲を享受しておすごし下さいますように。そしてこのクラブの精進をみまもり、おはげましく下さい。

名誉顧問 片 桐 哲



月日のたつのは早いもので本日ここに57回目の定期演奏会を盛大に催すことが出来て喜びにたえません。同志社グリークラブがキリスト教精神にもとずいた、恵まれた宗教的環境に育ちつ今日に進展して来ているのはまことによろこばしいことであるし、このことがとりもなおさず部員相互のメンタルハーモニーをささえ、すばらしい音楽を生み出しているのであると思ふ。

私は創立以来このグリークラブの顧問としてグリークラブの生長を見まもつて来たが、この度、顧問に遠藤彰教授、技術顧問に福永陽一郎氏を迎えさらに一層の飛躍を期待するものである。

今年も60名の新入部員を加え、ますます充実した学生合唱団として発展するよう努力をおしまないでほしい。これまでグリークラブに寄せられた各位の御指導、御協力を感謝すると共にこの演奏会の成功を祈つてごあいさつとしたい。

顧問 遠藤 彰



わがグリークラブの定期演奏会も今回で57回になります。昨年まで顧問として御指導下さつた片桐哲先生を初代指揮者としてグリークラブは始まつたのですが、定期演奏会はこの草創期いらい各時代の先輩たちによつて一年の演奏活動の一のピークとして、重視され力をいれられて参りました。各時代の定期演奏会のプログラムを見ますと、それぞれの時期にグリークラブがどのような努力をし、また発展をとげて来たかがわかります。この歴史を一貫して流れているものは、宗教曲演奏を通して体得し、またその表現を試みる敬虔と自由の精神であります。現在のグリークラブの諸君がこの伝統に立ち、さらに独自の境域を開拓されることを皆様と共に期待しつつ今夜の演奏会を楽しみたいと思ひます。

技術顧問 福永 陽 一 郎



本夕、御来場の皆様、心からのごあいさつをお送り申し上げます。今さら私から申すまでもなく、同志社グリークラブは、京都が日本に誇る一流合唱団であります。その同志社グリークラブが、今までにも増して満ちたべき、すぐれた音楽をうたい出すために、今年のはじめに、フェアウェルコンサートのとき発表されましたように、私がお手伝いをいたすことになりました。その最初の定期演奏会が本日であります。

当今、非常な発達をとげました、日本の学生合唱活動の中で、一流と称せられる団体に於きましては、アマチュアであることは、単にその精神的な基盤と申しますか、立脚する場の問題でありまして、音楽の内容や表現の技術については、既に専門の音楽家をしのぐものが出てきております。このような時代でありまして、長く学生指揮者による演奏を伝統としてきました関西の大学合唱団の中から、同志社グリークラブが先頭を切つて指導者を専門家にもとめたという、決断と勇気とに最大の敬意を表します。

しかしながら、この仕事には、東京から定期的に来る学生諸君にとつても、またわずかな時間を見つけてかけつけます私にとつても、大きな困難がつきまといつております。この困難を乗り越えることは、決してたやすいことではありません。けれども、学生諸君の、そして私の、同志社グリークラブに対する愛情が、その困難さを溶かしてくれるものと、固く信じております。

本夕御来場の皆様にとりまして、今日の音楽会がいくらかでも満足すべきものとして終りましたならば、それは私どものグリークラブへの愛情が実を結んだと申せましようし、また、皆様の御声援が私どもの胸にひびきましたときに、私どもは一層前進する勇気をふるいおこさせられることでありましよう。この音楽会が、音楽と同志社グリークラブを愛するすべての人にとりまして、素晴らしいものでありますように。本夕、御来場の皆様、心からのごあいさつをお送り申し上げます。

「心の統一と若々しさを」

幹事長 中島 英 嗣

私は同志社グリークラブの幹事長として、この誇りと伝統に輝やくグリークラブの歴史の上にさらに新しい歴史の1ページを書き加える創立57周年の定期演奏会を迎えることができることを心から喜ぶものである。われわれ学生合唱団にとつて最も大切なことは、技術的により高度なものに前進すべきはもちろんであるが、それ以上に合唱という場を通じて心のハーモニーを作り出すことである。われわれの作り出すハーモニーは青春の歡喜であり悩みであり、われわれの生命の表現である。これらのハーモニーに依つて生活を共にするわれわれは目に見えない心の統一とその絆で結ばれているのである。一つの音楽を造り出すために部員全部が心を統一し、精神を集中してこそ本当の音楽が生まれるのであつて一人の異端者の存在も許されない。そしてこの心の統一こそわれわれの力である。この力こそわれわれの生命である。いたづらに取りつくるわず常に素朴で真実な態度を忘れてはならない。われわれ学生に与えられた特権は若さとエネルギーである。殊更小細工に偏らず常にのびのびとした若さにあふれた演奏の必要性を痛感させられるものである。なぜならば若さと力強さを失つた音楽はもはや剣を捨てた兵士に等しいからである。

P R O G

DOSHISHA COLLEGE SONG

I 日本民謡

夜宮・夜神楽
島原の子守唄
おてもやん
こしき島舟唄

II 子供の歌

夏は来ぬ
海
砂 山
村 祭 り
里 の 秋

III 宗教曲

Zum Introitus
Zum Gloria
Zum Credo
Zum Offertorium
Zum Sanctus
Nach der Communio
Zum Agnus Dei
Schlussgesang

..... Intermission

R A M M E

IV 四重唱

John Henry
You'll Never Know
North To Alaska
Lover Come Back To Me

SILVER GATE QUARTET

V 男声合唱のための組曲

「在りし日の歌」
米 子
早春の風
閑 寂
骨
また来ん春

中原中也作詩
多田武彦作曲

VI 黒人霊歌

Swing Low Sweet Chariot
This ol' hammer
Sometimes I Feel Like A Motherless Child
Little Innocent Lamb

I 日本民謡

「夜宮・夜神楽」

「東北津軽」の民謡で夜宮という曲と夜神楽という曲をあわせたものである。夜宮とは弘前の高台に八坂神社があつて旧暦6月13日にこの神社の宵宮は、古くから弘前人に親しまれ、その状景を歌つた即興である。夜神楽とは別名「祇園囃子」ともいう。津軽の祭礼の夜、笛、三味線、太鼓に鉦のお囃子連中が街をねり歩く。その笛の音に歌詞が付き、歌われるようになった。

「島原の子守唄」

今年の春、演奏旅行で長崎県へ行つた時、バスガイドさんが歌ってくれた美しいメロディーが部員の心からはなれず、このたび福永陽一郎先生に依頼して定期演奏会のために編曲していただいたものである。かみしめて歌えば歌うほど、人々が苦しい生活と戦つてきたことがわかる抒情的な歌である。

「おてもやん」(熊本甚句)

おてもやんは熊本弁丸出しのところに郷土豊かな民謡の価値が発揮されている。通訳附でない意味の徹底しないところもあるが、面白い実に野趣に富んだ民謡である。

「こしき島舟唄」

赤銅色のたくましい漁師達が多くの小船に乗つて太平洋へ漁に向います。海原に点々とする小船の群から潮風に乗つて漁師達の力強いかけ声が聞えてくる。漁師達は今日も一日魚を追つて網を引き続けることだろう。こしき島とは鹿児島県の西の海上にある島である。

II こどものうた

文字通り、誰にもなつかしい子供のうたを福永陽一郎先生が男声合唱の機能と特徴を駆使して編曲された無伴奏の男声合唱曲集です。ところで曲の解説……いや、ここでは全く不要でしょう。男声合唱の響きを楽しみながら、そして、心の中で一語に歌いながら、幼き時代に想いを馳せて下さい。今日は編曲者の福永陽一郎先生に振つていただきましょう。

III ドイツミサについて

18世紀のドイツで宗教改革のあと、ルーテル派の教会などでは、ドイツ語の聖書が用いられ教会からラテン語が姿を消したが、依然として礼拝の形式はカトリックのミサの慣習からぬけきらなかつた。そういう時期にミサの形式の中でうたわれるためのドイツ語の歌が作られたと思われる。カトリックの祈拝文(ラテン語)にくらべるといずれも非常に短かいが、内容は共通している。ただGREDIOは、カトリックの信条が特殊なものであるため、内容も全く異つてゐるのは教義の違いから当然である。(ブラームスのドイツ鎮魂ミサ曲は、作品の成り立ちからいつて、礼拝とは全く関係のないものでありカトリックのレクイエムとの関連はない。このドイツ鎮魂曲と、シューベルトの時代のドイツミサの成り立ちを混同してはならない。)

「シューベルトのドイツミサについて」

シューベルト(1797—1828)は死ぬ前年に独唱と混声合唱と管絃楽のためにドイツミサ曲を一通り書いた。これはカトリックのミサで音楽を必要としているすべての通常文と固有文〔①入祭文キリエ②栄光篇、昇階篇③使徒信条④奉獻篇⑤三聖篇ベネディクトゥス⑥聖体拝領篇⑦神誕⑧終了歌〕に対抗するドイツ語の歌詞に作曲されたが、シューベルトの死後、その中の八曲(上記の番号付のもの)がザイフリートにより無伴奏男声合唱曲としてまとめられた。

日本では1929年山田基男氏指揮の同志社グリークラブが本邦初演をした。

「新編曲について」

従来のザイフリート編曲のものは、男声合唱としてのヒビキが大変悪いので有名であつた。今回同志社グリークラブが久しぶりにドイツミサをとりあげるにあつて福永陽一郎先生が全面的に改訂されたが、メロディーと和声は一切変更を加えていない。新編曲は同志社グリークラブに捧げられた。

IV 四重唱

Silver Gate Quartet

皆様によく親しまれております Silver Gate Quartet 今夜は最初にアメリカの Work Song から John Henry (ジョンヘンリー) 次に、映画「ヨーロツパの夜」の中で歌われておりました You'll Never know (ユルネヴァーノー) 三番目は最近のヒットチューンで North To Alaska (アラスカ魂) そして最後にちよつと前の映画主題歌から Lover Come Back To Me (恋人よ我に帰れ) の四曲を Top Toner 河村時孝、Lead Toner 鳥井武彦、Baritone 佐藤道雄、Bass 花谷豊、Piano 大山裕己でお送りします。

V 「在りし日の歌」

中原中也の詩集は数多くはない。しかし、そのどれもが、私達に何か議論するといつたような次元を超えて、私達の心の中に語りかけて来る。

詩集「在りし日の歌」は「山羊の歌」と共に、彼ののこした唯二つの詩集の一つであり、彼がわずらわしい都会の生活を捨て、郷里に帰らんとした時にして際し、編んだものである。しかし、それを友人小林秀雄に託した一カ月後病に倒れ、不帰の人となつた。1937年10月23日のことである。

その詩風は「山羊の歌」の官能に強くうつつたえるものを越え、心の底に深く沈まんとしている。その内面性は、彼の死の前年の愛児文也の死によつて、一層深いものとなつた。「在りし日の歌」は、この長男文也の霊にささげたもので、「また来ん春」は、この間の作品である。

彼の詩には、そこに、すでに音楽があつた。彼が昭和の初期という時代において、新しい日本の歌曲を生み出そうと努力したことは、高く評価されるべきであろう。諸井三郎氏の作曲になる「妹よ」(1935.1)は、その代表的なものである。組曲「在りし日の歌」は、その詩集の中から、「柳河風俗詩」「雪と花火」の作曲で知られる多田武彦氏が、五篇を選び作曲したもので、ただ合唱組曲というよりも、多田氏の選になる「音のある詩集」というべきであろう。上に述べたような詩自体の持つ音楽に加えて、多田氏の組曲「申勘助の詩より」に見られたごとき、高次の抒情性、象徴性と相まつて秀れた一つの「音詩」(Tone-Poem)を生み出しているのである。

VI 黒人霊歌

18世紀から19世紀にかけて、アメリカ南部の労働力としてアフリカから買われて来た黒人達は家畜のように使われ、しいたげられた生活の中で、その苦しみを神にすがることによつて、ひたすら天国に憧れを抱くことによつて耐えていました。その素朴な願いと祈りの歌、それが黒人霊歌なのです。

「しずかに揺れよ懐かしの戦車」

愛国の予言者エリアは、死期が迫ると、ヨルダン川を渡り、エリシヤに御者を托し、天から迎えに来た焔の車「戦車」に乗つて、この世を去つた。

しずかに揺れよ、迎えの車よ、
ヨルダン川の向こうをみれば
天使の群れ現われて来る……

「古いハンマー」

坊けども坊けども仕事は終らない。この古いハンマーはあのジョンヘンリーも殺してしまつた。俺もいまにこのハンマーの重さにたえかねて死ぬだろう。俺も今に死ぬだろう。

「時には母のない子のように」

黒人の魂の孤独と哀愁を、心ゆくまで歌つたさびしい霊歌。
時には母のない子のように
そして遠く故郷を離れているように感じる。

「神の小羊」

神の小羊よ、汚れなき神の小羊よ
神よ、私はあなたにお仕えいたしましよ
私に死の訪れる日まで
神よ、私はあなたにお仕えいたしましよ、

※ 編曲者名の書いてないものは全て福永陽一郎先生によるものです。

私は伝統ある同志社グリークラブの第31代指揮者になれたことを心から幸せに思っています。

同志社グリークラブは昨年までは学生指揮者のみでやってきました。学生指揮者の特点是指揮者と歌手が互いに協力して一つの音楽を作り上げる所にあると思います。

しかしこの協力だけではもはやどうにもならない所にまで昨今の合唱界のレベルは向上してきました。

音楽は私達学生だけでいくら探究しても手のとどかない広さと深さを持っています。だから一步でも私達が純粋な音楽に近づくためには、もはや学生だけではどうにもならず音楽家のアドバイスを得なければならない時代が来たと考えます。

この点で私達の最も尊敬しております音楽家の福永陽一郎先生を同志社グリークラブにお迎えできたことは私達の最も喜びとする所です。私は学生合唱団の指揮者、それも男声合唱団の指揮者なのです。だから学生でしか出せない若さに満ちあふれたそして男性的エネルギーをステージの上で爆発させたいのです。

この若々しさと力強さこそ私達学生合唱団の生命であると考えます。

クラブ員の完全な支持を得、福永陽一郎先生に温かく見守られて指揮できる私は幸せ者です。

今夜、私達の音楽を皆様方にお聞き願えることを嬉しく思います。



同志社大学歌

北原白秋 作詞
山田耕筈 作曲

- | | |
|---|--|
| 1 蒼空に近く 神を思う瞳
拳れり同志社 一の精神
伝えよ我が鐘 ひびけ高く
榮光新に 梢とそよがむ | 3 日や月を長く 神に出づる真
為すあり同志 社国の良心
洒かせよ力に 立てよ我と
校祖の教化は 息吹と薫れり |
| (折返)
樹えよ人を 輝け自由
我等我等 地に生きむ | 2 この道は篤く 神と通う智徳
辛あり同志社 三葉のクロー
ハ治めよ自ら 鶉れ私学
京都の山河は 津かに守らむ |

「在りし日の歌」

一、米子

二十八才のその処女は
肺病やみで肺は細かつた
ポブラのように人も通らぬ
歩道に沿って立つていた

処女の名前は米子といつた
夏には顔が汚れて見えたが
冬だに秋にはきれいであつた
—かぼそい声をしておつた

二十八才のその処女は
お嫁に行けばその病氣は
癒るかに思われた。と、そう思いながら
私はたびたび処女をみた……

しかし一度も、そうとは口には出さなかつた
別に、いい出しにくいからというのでもない
いつて却つて、落胆させてはと思つたからでもない
なぜかしら、わずじまいであつたのだ

二十八才のその処女は
歩道に沿って立つていた
両あがりの午後ポブラのように
—かぼそい声をもう一度、聞いてみたいと思うのだ……

二、早春の風

けふ一日まだ金の風
大きい風には銀の鈴
けふ一日また金の風

女王の冠さながらに
卓の前には腰を掛け
かびろき窓にむかひます

外吹く風は金の風
大きい風には銀の鈴
けふ一日また金の風

枯草の音かなしくて
煙は空に身をすさび
日影たのしく身を翳ぶ

蒼色の土かほるれば
物干竿は空に往き
登る坂道なごめども

青の女の顎かごと
岡の梢のとげとげし
今日一日また金の風

三、閑寂

なんにも訪ふことのない
私の心は閑寂だ

それは日曜日渡り廊下
—みんな野原へ行つちやつた

板は冷たい光沢をもち
小鳥は庭で啼いてゐる
締め足らない水道の
蛇口の滴はつと光り—

土は薔薇色、空には雲雀
空はきれいな四月です
なんにも訪ふことのない
私の心は閑寂だ

四、骨

ホラホラこれが僕の骨だ
生きている時の苦勞にみちた
あのけがらはい肉を破つて
じらじらと雨に洗はれ
スットと出た骨の尖

それは光沢もない
ただいたづらにじらじらと
雨を吸収する
風に吹かれる
幾分空を反映する
生きてゐた時に
これが食堂の雑踏の中に
坐つていたこともある
みつばのおしたしを食つたこともある
と思へばなんとも可笑しい

ホラホラこれが僕の骨—
見ているのは僕？可笑しなことだ
靈魂はあとに残つて
また骨の処にやつて来て
見ているのかしら？

故郷の小川のへりに
半ばは枯れた草に立つて
見てゐるのは、僕？
恰度立札ほどの高さに
骨はしらじらととんがっている

五、また来ん春……

また来ん春と人はいふ
しかし私は辛いのだ
春が来たつて何になる
あの子が返つて来るぢやない
おもへば今年の五月には
おもへを抱いて動物園
象を見せても猫といひ
鳥を見せても猫だつた
最後にみせた鹿だけは
角によつほど惹かれてか
何ともいはず眺めてた
ほんにおまへもあの時は
此の世の光のただ中に
立つて眺めてゐたつげが……



M E M

B E R S

名誉顧問
顧問
技術顧問

片桐哲
遠藤彰
福永陽一郎

幹事長 中島英嗣
内政 磯野稔
外政 祖父江重剛
渉外 民秋言
会計 辰己孝吉
庶務 和氣豊夫
副渉外 林田慎也

指揮者 浅井敬一
パートリーダー
Ist Tenor 河村時孝
IInd Tenor 大山望
Ist Bass 青木一雄
IInd Bass 佐藤道雄

Ist Tenor

吉有毅一郎(商4兵庫高)
浅井敬一(法4堀川高)
土居康雄(法4富山福野高)
河村時孝(經4豊中高)
川本葵(法4岐阜高)
中島英嗣(經4亀岡高)
岡部一宏(法4福島郡山高)
大橋裕(文4美唄東高)
箸方俊二(經3丸亀高)
井上晶雄(經3同志社高)
神保進(商3長岡高)
森本久光(法3洛北高)
中西永二郎(法3園部高)
大石寛夫(文3同志社高)
畑中宣彦(法2四日市高)
林節(文2泉陽高)
井坂敏(經2山城高)
門浩二(經2綾部高)
斉藤哲也(經2朱雀高)
山口正矩(法2同志社香里高)

IInd Tenor

磯島清輝(法4岡山操山高)
前川明生(商4柳井高)
松田武三(文4伏見高)
三宅健司(經4同志社高)
大山望(神4朱雀高)
豊田勇幸(文4高知小津高)
田村京三(商4天王寺商高)
松谷皓介(經4同志社高)
赤木進(法3猶興館高)
金川武二(經3同志社香里高)
幸田長明(法3豊中高)
岡本忠邦(經3加古川東高)
大藤卓英(文3長崎西高)
大山裕己(經3同志社高)
田村康浩(經3堀川高)
鳥井武彦(商3同志社高)
吉田謙之助(經3同志社香里高)
市川宣秀(商2国府高)
岩木六馬(法2洛陽高)
神林基樹(經2大阪牛野高)
小林惠文(文2沼田高)
松本鎮一(經2海南高)
中西薫(法2甲賀高)
中野寿紀(商2札幌東高)
山内勝博(商2清水谷高)

Ist Bass

笠松公孝(商4勝山高)
松原武雄(商4兵庫高)
道幸岑夫(經4大阪東高)
大川輝夫(商4奈良高)
祖父江重剛(商4同志社高)
杉江清輝(經4旭高)
民秋言(經4同志社高)
辰己孝吉(商4小樽潮陵高)
氷室学(法3綾部高)
北川博嗣(商3嵯峨野高)
松倉信充(經3福岡高)
長原利行(經3宮原高)
坂下義紀(法3洛北高)
湯浅一朗(經3長田高)
和気豊夫(經3同志社高)
山内康一雄(商2紫野高)
青木田勝久(法2清水谷高)
松林直(工2今治北高)
三品正英(工2同志社高)
田中省一(法2大手前高)

IInd Bass

花谷良信(工4同志社香里商)
林田一以(經4高松高)
藤岡野稔(商4膳所高)
三谷雅之助(商4修道高)
佐藤道雄(文4桃山高)
田中惶(商4桜ヶ丘高)
吉実祐捷(商4阿部野高)
由里義和(商4同志社高)
深尾朝四郎(商3鴨沂高)
林田慎也(經3鴨沂高)
真野光長(經3洛北高)
丸山増幸(法3同志社高)
松永洋一(經3熊本高)
見木真一(經3嵯峨野高)
根本正文之(文3同志社高)
辻規(經3新居浜東高)
後藤健夫(文2紫野高)
日和田通誠(文2同志社香里高)
西川紀行(商2仙台二高)
境東洋明(商2同志社香里高)
山中信興(法2大淀高)

FRESH MEMBER S

天田祐(工1高崎高)
我妻誠(文1美幌高)
伊達宣(經1国泰寺高)
土生邦彦(經1小倉高)
長谷川洋一(經1臼杵高)
古川紀久(文2松阪工高)
平井健之(文1膳所高)
堀部勝也(法1洛東高)
福武照文(商1同志社高)
磯部俊英(文1同志社高)
石原保之(法1菊里高)
岩谷光雄(商2三原高)
角屋勘太郎(經1萩高)
川原豊一郎(文1同志社高)
川北純二(商1泉陽高)
寛正彦(工1同志社香里高)
神田尚彦(商1大宇陀高)
岸本修一(經1洛星高)
高下博彦(工1観音高)

小谷洋(經2洛陽高)
小宮山紀夫(法1同志社高)
熊谷利彦(文1恵邦高)
楠本英雄(法1同志社高)
松原毅(經1同志社高)
松原俊雄(商1同志社高)
松井裕(經1同志社高)
内藤秀樹(法1浜松西高)
中川清(經1清水丘高)
中沢慶雄(商1高知西高)
夏目和良(經1佐久間高)
西部克己(商1洛東高)
西田憲司(工2長田高)
西井正彦(商1鳴尾高)
野上幸市(商1阿倍野高)
大河内亮三(經1桃山高)
大熊政次(商1操山高)
奥田守(商1奈良高)
奥村克司(經2彦根東高)

奥野晋生(經1三原高)
佐藤洋(經1名古屋高)
芝原浩二(經2同志社高)
淡江晋一(文1福岡高)
清水昭彦(法1宇和島南高)
下宮国雄(法1福山高)
下山生修(法3忠海高)
鈴木謙介(經2同志社高)
田淵五十生(法1桃山高)
竹上一郎(經1山城高)
鳥居克次(商1若狭高)
植原康文(商1観音高)
山田至孝(商1奈良高)
山口達夫(經1紫野高)
山下肇(法1長田高)
安中幹夫(工1観音高)
米原正研(法1鳥取西高)

グリー半世紀の歩み

同志社グリークラブ小史

同志社グリークラブは創立57年、現在部員150名という大世帯で、校内演奏は勿論、放送に演奏旅行にと、その目的たる「同志社精神を戴し、メンバー相互のメンタルハーモニー、カーレツジライフの向上」に不断の精進を続けております。

草分け時代の明治34・5年頃は単に讃美歌を練習するための小グループに過ぎなかつたのですが、明治44年現顧問片桐哲先生がこれを同志社グリークラブと名付け、初代指揮者となり、はじめて組織化されました。ところが、この合唱団は宗教本位で聖歌団隊なものであつたので、これに飽きたりない学生が大正2年プリムローズクラブなる合唱団を組織して一般の合唱音楽の研究につとめるようになりました。以後合唱団は或は共に、或は別に発表会、コンクール、演奏旅行等に活躍発表いたしました。その旅行の足跡は日本国内は勿論、遠く満州、朝鮮、中国、台湾に及んでいます。

昭和16年、二つの合唱団は合併し同志社大学男声合唱団となり、両方の性格を兼備するようになりましたが、その後戦争の激化と共に音楽活動もままならず、一時は練習もとだえがちとなりましたが、戦後いちやく復活し、同志社グリークラブとして今日に至っています。その間毎年の定期演奏会、東西四大学（早・慶・同・関学）交歓演奏会、立教大学グリークラブとの交歓演奏会、コンクール、テレビ・ラジオ放送、毎春・夏休暇を利用して行なわれる演奏旅行に、研究と努力を続けております。

コンクールに於いては、戦後日本及び全関西の合唱コンクールに14回出場し、1位5回、2位8回、3位1回の成績を収めております。かくの如く半世紀に汎る輝やかな歴史の間、約500名の先輩を送り、今尚音楽界に活躍中の内田栄一、湯浅永年、山口隆俊、宅孝二、今西善治郎の諸氏もその中の一人であります。

そして今までもいろいろ御指導下さった福永陽一郎先生を技術顧問としてお迎えし、尚一層の前進へと努力しております。

SUNTORY CLUB

It's always a pleasure

グリークラブ 一年の主なあしあと

1960年

- 6月1日 同志社グリークラブ創立56周年記念定期演奏会 京都第一ホール
- 6月11日 立教大学グリークラブと交歓演奏会 東京文京公会堂
- 6月25日 第九回 東西四大学交歓演奏会 京都第一ホール



- 写真上から
1960.8
①「群馬県伊香保サナトリウム訪問」
1960.8
②「夏期演奏旅行のステージにて」
1960.8
③「札幌にて」
1960.11
④「ハイキング 清滝にて」

- 6月26日 同上 大阪フェスティバルホール
- 6月27日 クローバークラブ定期演奏会 賛助出演 大阪毎日ホール
- 6月30日 神戸特別演奏会 神戸国際会館
- 7月28日 大津特別演奏会 滋賀会館ホール
- 7月29日～8月15日 夏期演奏旅行 四日市、名古屋、岐阜、静岡水戸、前橋、新潟、会津若松郡山、仙台、盛岡、函館、小樽、札幌、
- 9月7日～11日 夏期合宿琵琶湖畔 復活学園キャンプサイト
- 11月12日 同志社創立85周年記念「EVE大音楽会」 大阪フェスティバルホール
- 11月25日 奈良県添上高校文化祭賛助出演
- 11月26日 同志社創立85周年記念「EVE音楽会」 京都第二ホール
- 11月27日 同上 京都第一ホール
- 12月3日 同志社グリークラブ創立56周年記念大阪特別演奏会 大阪毎日ホール
- 12月8日 京都音楽家同盟主催「邦人作品の夕べ」 京都第二ホール
- 12月16日 ノートルダム女学院と合同演奏「レクイエム」 ノートルダム女学院
- 12月17日 同上

1961年

- 1月16日 フェアウエル コンサート 京都第一ホール
- 2月26日 甲賀特別演奏会 滋賀県立甲賀高校講堂
- 3月4日 奈良特別演奏会
- 3月5日～21日 春期演奏旅行 奈良、明石、相生、倉敷、福山、三次、広島、今治、広島延岡、大分、佐世保、博多、佐賀、長崎、
- 4月28日 同志社・関学・神戸女学院特別演奏会 大阪産経ホール



- 写真上から
1961.3
①「片桐哲先生を囲んで」
1961.3
②「倉敷民芸館前にて」
1961.4
③「同志社、関学、神戸女学院合同演奏会」
1961.5
④「福永陽一郎先生を囲んで」

- 5月23日 ジョイント コンサート 京都第一ホール
- 5月27日 県人会主催演奏会 栄光館
- 6月4日 立教グリークラブと交歓演奏会 京都第一ホール
- 6月17～18日 第十回 東西四大学交歓演奏会 東京文化ホール
- 6月24日 ハーバード大学グリークラブ演奏会に賛助出演 京都第一ホール